

第1学年1組 学級活動案（読書指導）

平成19年11月20日（火）第2校時

1 題材 お話の世界を楽しもう

2 題材設定の理由

子どもたちが本を読まなくなつたと言われて久しい。子どもたちはテレビやテレビゲームなどさまざまなものに興味を持ち、スポーツ、ピアノなどお稽古ごとに追われて忙しくなつてきている。読書以外にも楽しいことややらなければならないことがたくさんあるのが現状であろう。また、良くも悪くもたくさんの情報があふれている昨今である。読書という自らが根気強く読み進めていかなければならない活動を困難に感じる子どもも多いのではないのだろうか。

また、言語環境、メディア環境が激変する中、見直されているのが「読むこと」の教育である。いわゆるPISA型読解力（OECD加盟国で15才の生徒対象に行われる学習到達度調査）が話題になったこともあり、今「読解指導」が注目されている。そして「読解指導」を見直すために「読書指導」の改革は急務であると言われている。次の「学習指導要領」でも「読書指導」は改革の柱となっていることから読書を通して読解力をつける手立てを考えてみた。

読書で一番大切なことは、子どもの中に潜在能力として眠っている「読む力」を引き出すことである。そこで、考えられる有効な手法としてアニメーションを取り入れることにした。「読書のアニメーション」とは本を一人で十分に読めない子どもを手助けして、自分一人で本を読んで理解し、深く考えて自分のものにする力を引き出すためのスペインで開発された読書教育メソッドである。このアニメーションでは、どんな子どもでも読書に興味を持てるように工夫されており、読んだ後で自分の意見を言い、話し合つて読みを深めていく、コミュニケーションのある集団読書である。子どもたちは遊び感覚の楽しい活動の中で本のおもしろさをより深く味わうことができるだろう。しかし、読書のアニメーションでは、自発的に本を読むようになり、読んだことを理解し、自分の内面を深め、本を読みこなすことができる思考が育つ。読書好きな子どもを育てることも目的であるが、人生を豊かに強く生き抜いていくための能力と人間性を身に付けることをも大きな目的とするものである。アニメーションの活動をすることで、読書が好きな子にはさらなる意欲を、あまり好きではない子には「本って思っていたよりおもしろそうだな。」という思いを持ってもらいたい。

また、この時期に国語の「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で読書に親しむ体験をすること、読書月間ということで全校的な取組もあることから、意識の高まりも期待される。

なお、国語とは切り離し、強制をしないで、自由な読書を通して子どもの力を引き出すというアニメーションの趣旨から本時を学級活動扱いとした。

3 児童について

男子17名、女子16名、合計33名のクラスである。

本学級の児童は明るく、活発で何にでも興味を持って取り組んでいる。

四月当初、子どもたちとはじめて出会った時に校長先生が「白木先生は本を読むのが大好きで、みんなにもたくさん本を読んで下さいますよ。」と紹介して下さった。そのためか、子どもたちは最初から本の読み聞かせを大変楽しみにしていた。

最初の一冊は「ぼちぼちいこか」（マイク・セイラー作 今江祥智訳）である。保育園や幼稚園で読んだことがある子どもたちもいたが、関西弁の軽快な繰り返しのとてもうれしそうだった。絵本に慣れ親しんだところで「おいしいのぼうけん」（古田足日作）を読んだ。これは子どもたちにとっては長い話であったが、ほとんどの子が最後まで興味を持って聞くことができた。その後も子どもたちが自分と重ね合わせて聞くことができる「1ねん1くみシリーズ」（後藤竜二作）などを朝の会や空いた時間などを利用して読み聞かせている。

また、1年生の子どもたちが学校生活に慣れてきた6月上旬に図書支援員に本の貸し出

しについて読書指導をしてもらった。このことから進んで図書室に行ったり、本を読んだりする子が増えた。

家庭での実態を知るために読書についてのアンケートを行った。(33名)

読書が好き	14名	ふつう	16名	きらい	3名
毎日読書をする	10名	休みの日に読む	20名	読まない	3名
図書館によく行く	6名	たまに行く	21名	行かない	6名
読み聞かせをよくする	5名	たまにする	18名	しない	10名

このことから、読書に対してわりと関心がある家庭が多いよううかがえる。きらいと答えた子の理由には、読書よりもゲームやテレビなどの方に興味があるなどが挙げられた。読書している本の種類はお話や絵本が多い。中には雑誌や漫画しか読まない、ゲーム攻略本ばかり読んでいるとの意見もあった。児童の読書カードにもあるように、図鑑が好きな子は主に図鑑を、クイズ関係が好きな子はクイズばかりというように同じような種類の本を読む傾向にあった。また、家庭での読み聞かせが予想より少なかったが、これは一年生全体の傾向にあった。これは、核家族で共稼ぎの家庭が約1/3あり、時間的に余裕がないためではないかと考えられる。

一方、保育園や幼稚園の読書活動について調査をしてみたところ、地区の園によって多少の差はあるものの、ほとんど毎日、朝や降園前に本を読み聞かせてもらっていた。園の本を借りて親子で楽しむこともあった。お気に入りの本を劇にして発表会でみんなで演じるというような活動もあり、豊かな読書体験を経験しているといえるだろう。

本校では週時程に朝の読書タイムが位置づけられており、定期的に読書できる。ほとんどの子が文字に慣れ、集中して自分の好きな本を読んでいる。また、保護者ボランティアによる読み聞かせも楽しみにしている。しかし、まだまだ一人で読書するのが苦手で、ただ写真や絵をばらばらとめくっていたり、少し長編になると最後まで読まずに取り替えに行ったりする子も見られる。このような子どもたちにアニメーションによる読書指導をしたと考えた。

4 指導について

研究主題とのかかわり

本校の研究主題「思いをふくらませ表現できる子どもの育成」を受けて低学年部会では「楽しくいきいきと表現できる子どもの育成」を部会テーマとしている。「聞く・話す」の基本的な態度をしつけながら、楽しく生き生きと表現できる子を目指して、生活科や国語科の発表会、朝の会や帰りの会でのスピーチなどに取り組んできた。本校の児童に身に付けさせたい力として「コミュニケーション力」や「聞く・書く・話す力」が挙げられるが、どれもすぐに身につくものではない。長期的な見通しを持って、低学年のうちから培わなければならない力であろう。今回は「アニメーション」の活動を通して「聞く・話す力」や表現力を養う手がかりとしたいと考えた。

表現力の育成のために

文字に多く触れてほしいとの思いから音読の宿題をほとんど毎日出してきた。進んで音読に取り組む子が多く、中には2000回以上読んでいる子もいる。お互いに励みになるようで、音読カードを見せ合う姿も見られる。また、国語の授業の前には音読集を読み、友達と一緒に声を出す楽しさを味わってきた。

国語の教材では「はなのみち」「おむすびころりん」「大きなかぶ」「くじらぐも」を学習した後に劇などをしてきた。グループで練習するうちに最初は恥ずかしがっていた子も友達と楽しく劇活動をすることができた。

今回も劇活動を取り入れる。初めてやるお話なので、とまどう子がいることも予想されるが、あたたかい雰囲気の中で演じる楽しさを感じてほしいと考えている。

意欲的な読書活動のために

年度当初から、学級文庫とは別に良書を幅広く読んでほしいとの思いをこめて「せんせいのおすすめのほんコーナー」を設置した。読み聞かせた本や、読んでほしい本は必ずここに置いておき、いつでも手に取れるようにした。

二学期からは「このほんよんでね」を掲示し、友達が推薦する本を読んだらシールを貼る活動を行ってきた。自分が推薦した本は「ともだちのおすすめのほんコーナー」に置いている。友達の本当という思いがあるためか、大切に扱い、熱心に読んでいる。これらの活動で、自分が好きな本ばかりではなく、いろいろなジャンルの本にも挑戦する意欲を持ってほしいと考えている。

本時に向けて

本活動は3時間で構成した。まず第1時はアンケートの結果より、子どもたちが読む本に偏りが見られることから、図書支援員との「としょじつのほんのひみつをみつけよう」を入れる予定である。ここで図書室の本はいろいろな仲間に分けられていることに気づかせ、どこの書架にあるか調べさせる。そして、食べ物などに例えて話し、進んでいるいろいろな分類の本を読もうとする態度を育てたい。

第2時で「ダウトをさがせ」のアニメーションを体験させたい。「アベコベさん」(フランセスカ・サイモン文 ケレン・ラドロ絵)を扱う。この「アベコベさん」は何もかもが逆さまの家庭での騒動が描かれており、小学生が大喜びする愉快な話である。

アニメーションにはたくさん手法がある。ダウトをさがせ、いつどこで、クイズ大作戦、ぼくのタイトル世界一、ぼくもわたしも書評家、ぼくもわたしも探偵作家、などたくさんあるものの中から、低学年の子どもたちが楽しめるものを取り上げた。

本時では「てぶくろ ウクライナ民話」(エウゲーニー・M・ラチョフ絵 うちだりさこ訳 福音館書店)を使うことにした。あらすじは、次のとおりである。雪深い森におじいさんが落としていったてぶくろは、くいしんぼねずみのすみかとなる。しかし、「だれ、てぶくろにすんでいるのは。」とびよんびよんがえる、はや足うさぎ、灰色おおかみ、きばもちいのしし、のっそりくまたちがやってくる。はちきれそうなてぶくろの中で、動物たちは体を寄せ合って仲良く過ごす。そして、犬の鳴き声によって動物たちは、雪の中に散っていく・・・というものである。ロシアの大地で口承文芸として語り継がれてきているお話である。

まずは「てぶくろ」を読み聞かせて話の内容を知らせる。ここでは後で問題を出すことを予告してなるべくゆっくりと読み聞かせたい。次に3つのアニメーション(これだれのもの、そのカード前後ろ、ぼくもわたしも旅芸人)を体験させたい。

これ、だれのもの

(ねらい) 登場人物の持ち物から、それらがだれの物かをあてさせることによって登場人物のことを理解させる。また、絵に集中させ、本に集中して読ませるようにする。

(活動) 登場する動物たちの衣装や持ち物から登場人物を当てる。例えば、棒にくくりつけてある荷物を見せて誰の持ち物か聞く。「はやあしうさぎ」と答えて正解だが、ただのクイズにならないように本のその場所を見て確認するようにする。

そのカード前、後ろ

(ねらい) バラバラになった場面ごとの絵を順番に並べさせることにより、ストーリーを知り、より深くお話の内容を理解させる。

(活動) バラバラにした場面の絵の1枚を一人が持って並ぶ。次の場面の絵を持った子は、もしその場面がその場面の絵の前だったら左へ、後の場面だったら右

に並ぶ。並べ終わったら、正しい順が全員で考える。合っているかどうか、実際に本を見て確かめるようにする。間違えていたら、並び直しをする。最後にそれがどの場面かを順に説明する。自分のことばで話を再構成させる。

ぼくもわたしも旅芸人

(ねらい) 実際の場面を演じ合うことで、物語の世界に入りこんで、楽しく活動させる
 (活動) 動物たちのお面をつけさせ、セリフを言って演技させる。動物の歩き方やてぶくろへの入り方などにも気をつけさせ、楽しく演技ができるようにする。セリフの一部や最後の子犬の「ワン」というところは全員で言わせて、みんなで楽しめるようにする。

これらの活動の後、図書支援員から関連図書についての話を聞く。ロシアの民話を素材にした本を何冊か紹介してもらい、その後の読書活動への意欲づけになれたらと考えている。

子どもたちは、すでに保育園や家庭などで、この話を読み聞かせてもらっていることだろう。また、9月に国語で学習した「大きなかぶ」も同じロシアの民話であり、同じ事象が繰り返されて終末を迎える内容である。「てぶくろ」も同じような構成であり、子どもたちにとっても親しみやすい話であることが考えられる。そして、なんともいえない絵の温かさもある。お話の中におじいさんや子犬は登場するが、絵の中には一切出てこない。しかし、最後のてぶくろの絵が最初の動物たちの入る前のてぶくろと同じ絵に描かれており、何もなかったように感じさせる印象的な構成となっている。てぶくろという言葉から多くのものが想像でき、子どもたちも様々な感想を持つことだろう。その中であたたかいぬくもりを感じさせたいと思う。

5 指導計画

- としよしつのはんのひみつをみつけよう。 1 時間
- 「アベコベさん」をたのしもう 1 時間
- 「てぶくろ」をたのしもう 1 時間 (本時)

6 本時の目標

「てぶくろ」のお話を通して登場人物や場面の展開について考え、お話の世界を楽しむことができる。

7 準備物

登場人物の絵カード、登場人物の持ち物、場面絵のカード、登場人物のお面、てぶくろの絵

8 本時の学習過程

	学 習 活 動	支援 (・) と評価 (☆)
本	○「てぶくろ」の読み聞かせを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをする。 ・後で問題を出すことを予告しておく。 ・お話を聞いた感想を聞く。 ☆お話を楽しんで聞いているか (行動・観察)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 「てぶくろ」のお話の世界を楽しもう </div> ○登場人物を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・くいしんぼねずみ ・ぴよんぴよんがえる ・はやあしうさぎ ・おしゃれぎつね 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の絵カードと名前カードを貼っていく。 ・最初の活動なので、意欲が高まるように配慮する。

<p>時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はいいろおおかみ ・きばもちいのしし ・のっそりぐま <p>○「これ、だれのもの」で 登場人物の持ち物をあてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このぼうしはいいろおおかみだよ。 ・この荷物ははやあしうさぎかな。 <p>○「そのカード前、後ろ」でグループで場面ごとの絵を正しい順番に並べる。</p> <p>○「ぼくもわたしも旅芸人」でお面をつけて動物たちがてぶくろの中に入るところを動作化する。</p> <p>○図書支援員による関連図書の紹介を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の下に持ち物を置く。 <p>はやあしうさぎ (荷物) はいいろおおかみ (ぼうし) のっそりぐま (洋服)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで声をかけあい、協力して並べ替えができるように助言する。 ・最初から一人ずつ順番に場面を説明させる。 ・あたたかい雰囲気の中で自然に演技できるように配慮する。 ・セリフの一部を全員で言わせ、楽しさを共有できるようにする。 <p>☆場面の様子や人物の気持ちを想像しながら、積極的に読書のアニメーションに参加しているか。(行動・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書支援員に関連図書を紹介してもらい、読書への意欲をさらに高める。 <p>うさぎのいえ おだんごばん パンのかけらとちいさなあくま など</p>
----------	--	--